緑のまちあれこれ

○　例年なら三寒四温という季節なのだが、今年は異常気象のせいか、道免き谷津の桜も開きかけたまま咲くに咲けずいわば凍結状態が続いていた。気のせいか、コブシの花も元気がなかったようだ。いまは、２丁目の公園の５本の桜の老木は満開で、もう花びらが散り始めている。

○　北国分の町は相変わらずだが、堀之内地区は新しいマンションの建設が始まったと思ったら、いつの間にか引越し車が来て、もう新住民が入っていた。北総北国分駅前の農家直売という野菜販売店も、あまり繁盛はしていないようだがなんとか定着客がついてきたのだろうか。

○　３月の最終日曜日、博物館の縄文体験フェスティバルが開かれた。今年で10回目になる。春休みということもあって、当日曇り空であったが幸い雨も降らず、駐車場の桜もほぼ八部咲きということで、幼児を連れた親子など一日中、人出で賑わった。縄文土器によるアサリ・じゃがいも・縄文鍋（今年はエゾシカ肉入り）と焼肉に人が集まり、老人会の餅・ゆで卵、法人会の焼きソバ、フリーマーケット、火起こし体験、拓本、粘土型抜き、勾玉づくり、紙芝居などなど、子供たちの歓声が響いていた。県文化財団の北下遺跡の展示も人目を引いた。

第13回公害調停　　5月27日　千葉市で開催（予定）

■　編集後記■

小塚山のトンネルは完通し、外環はこれから本体工事のほか国道部分へと移るのでしょうか。北総との交差部分の工事を含めて大型トラックの往来が激しくなります。そして工事は国分から菅野に、市川市街地へと広がって行きます。

今号では、菅野３丁目の高野禎子さんに寄稿していただきました。有難うございました。

緑のまち
―北国分だより―

第93号　　2010.4.20　発行

編集　　北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-29-12　越田方
Tel 047-372-8936
www.midorinomachi.net

新緑の小塚山に流れる和楽器の調べ

近づく第17回　森の音楽会

実行委員長　　星　野　　亘　良

春の訪れとともに、また小塚山森の音楽会が近づいてきました。第17回を迎えた今年は5月9日の午後（１２時半から３時頃）に開催します。会場はいつもの小塚山のあずまや前の広場です。雨天の場合は小塚山研修所でやります。「そこのけ　そこのけ道路が通る」という開発優先の20世紀型の外環道路工事によって下部をえぐられ傷つけられましたが、小塚山では今年も森の音楽会が開催できます。

今年のメインプログラムは、“尺八と箏の調べ”で、尺八（吉田長生さん・第15回に出演されて好評でした）と、箏３面（阿佐美穂芽・門井良博・日吉章吾さん）の和楽器の演奏です。演奏曲目は、春の海　さくら変奏曲　瀬音　アメイジンググレイスなど。

地球温暖化の影響からか、不安定な気候になっている昨今ですが、通常の気候ならば、したたるような新緑の小塚山、そして満開の白いエゴの花、その中を和楽器の調べ、それは小鳥たちの歌声と呼応して私たちを夢幻の世界に誘ってくれるでしょう。森の中での音楽会、風の音や小鳥のさえずりとともにある音楽は、ほんとうに音楽の原点を体感させてくれます。第１部（約30分）には、地元のアンクルンの会、緑のまち合唱団も出演します。会場のみなさんと一緒に歌うコーナーもあります。

今年も楽しみな音楽会になりそうです。５月９日、小塚山でお会いしましょう！

第17回小塚山森の音楽会

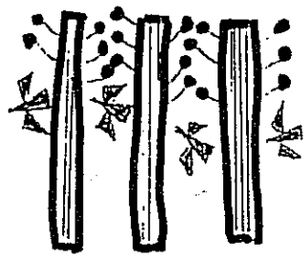
と　き：　　2010年5月9日（日）
ところ：　　小塚山市民の森あずまや前広場（雨天の場合は小塚山研修所）

プログラム：

開会　　12時30分

第1部　　森よとわに　　合唱
主催者あいさつ　　実行委員長
外環道路現況と展望　外環反対連絡会　高柳
アンクルンの会　演奏
緑のまち合唱団

第2部　13時
尺八と箏の調べ
演奏曲：
春の海　　さくら変奏曲　　瀬音
アメイジンググレイス　　など
休憩後、後半の演奏の前に「野鳥の話」（メッセージ）



終　了　15時過ぎ

演奏メンバーのプロフィール：

尺　八：　　吉田長生（よしだ　ながお）
伝統音楽普及振興活動グループ「竹童」代表。東京藝術大学音楽学部邦楽科別科卒業。演奏会・テレビなど多方面で活躍中。

箏：　　阿佐美　穂芽（あさみ　ほのか）
東京藝術大学卒業。千葉県出身。国内外を問わず演奏活動に取組む。

門井　良博（かどい　よしひろ）
玉川大学文学部芸術科卒業。東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。上野雅楽会に所属し、雅楽の演奏・普及に努めている。

日吉　章吾（ひよし　しょうご）
東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。在学中「安宅賞」を受賞。

□探　鳥　会　報　告□

日　時：平成22年2月14日（日）
天　候：晴
参加者：石居　石居　小沢　加山　金子　川上　川上マユ
越田　小島　佐々木　鈴木　鈴木　谷口　谷口
三好　村岡　吉田　　計　17人
確認された鳥：
カルガモ　ヒドリガモ　オナガガモ　ハシビロガモ
キンクロハジロ　キジバト　カワセミ　コゲラ
ハクセキレイ　モズ　ルリビタキ　ジョウビタキ
シロハラ　ツグミ　エナガ　ヤマガラ　シジュウカラ
メジロ　スズメ　ムクドリ　オナガ　ハシボソガラス
ハシブトガラス　　計23種
コメント：久しぶりの晴れ、ルリビタキ　ジョウビタキ　カワセミ　がとてもよく見られて、参加者みな楽しい時を過ごしました。
（村岡幸生）

次回　4月29日（祝）　小塚山あずまや　10時集合（雨天中止）
どうぞお気軽におでかけください

冬の探鳥会で

谷口　敏子

2月14日（日）の探鳥会に参加させていただきました。鳥に出会うためには、静かに静かに耳をすませて歩きましょう、と声をかけられました。

小塚山市民の森の中を、耳をとぎすませ、目を見張りながらゆっくりと進んでいきました。すると、聞こえてきました。メジロのさえずりや、シジュウカラ、ヤマガラそして高い木の枝にはエナガ、長い尾を忙しそうに動かしている姿が確認できました。

じゅんさい池緑地では、ジョウビタキのオスが、切り株の上で日ざしを浴びていました。じゅんさい池に降りてゆくとカメラをかまえている方が指さすところにカワセミがいました。

村岡先生に教えていただきながら，2時間余りの散策で、23種類の鳥に出会うことができました。

菅野外環今昔　そしてこれから

菅野３丁目　　高　野　　禎　子

昭和 41 年に外道路計画が新聞紙上に発表されて以来、40 年あまり外環ルート上の地域を揺り動かしました。国の方針と住民の立場とで、促進だ、撤回だとぐりかえされるなか、“東京都部分は暫らく凍結”の報道にやや安堵の糸口が見えたかと思われたのも束の間、松戸市内で測量が始まり、市川市民が市議会に凍結を請願、その後松戸市議会、千葉県議会、市川市議会が揃って凍結・再検討の請願を採択。そして「市川市松戸市外環道路対策協議会連合」（外環連合）が発足しました。

そうした動きに時の金丸建設大臣が「地元の自治体や住民が反対するならやめるべきだと思う」と発言されたのはあまりにも有名な話でありました。しかしその２か月後には国道 298 号の葛飾区～市川間の工事を告示するなど、発言とは裏腹な国の実体が見えます。そのような経過があっても、住民と千葉県議会、市川市議会は一体と信じていました。外環連合を中心とした反対運動が続く中、前々市長の外環受け入れ表明で事態は一変しました。

戸ごとの木々が街を潤していた住宅地は外環予定地となり、今は緑色の金網のフェンスに囲まれた雑草地と化しています。かつて反対運動を盛り上げていた人たちは老齢期を迎え、新しい住民の方々も増えました。

住友鋼管の跡地には小・中・高一貫校の日の出学園が堂々たる新校舎の威容を見せ、2丁目地区の中・高部の跡には日の出幼稚園が新築され、また国府台女子学院が近々新築されるとか、学園の町として生命力溢れる姿も、また菅野の新鮮な風景でもあります。旧市川病院跡にホームセンター・ユニディ、歯科大教養部跡にはスーパー・マルエツがともに広い駐車場を備えて町の活気を呼んでいます。それらは大いに喜ばしいことでありますが、気がついてみれば市川外環計画がもたらした副産物であるとも言えます。《新しきものを迎えるは楽し。されど失われし豊かなものたちよ》の心境であります。

長きにわたっての外環反対運動は表面的には閉ざされたかのように見えますが、地元の皆さんと接していて話題が外環に及ぶと「町が分断されて外出がかままならなくなる。駅へ行くのも大変なことです」「空気がよごれて洗濯物は大丈夫か、こんな空気を毎日吸っていたら子供は丈夫になれず、体の弱い者や年寄りは早く死ぬでしょう」「通学路は大丈夫でしょうか」「車を乗りまわす人たちだけが得をする道路だ」など、多くの人が不安を抱いています。

外環反対運動には菅野の多くの主婦たちが関わってきたことを町会は認めてくださり、歴代の町会長の理解と配慮があって長年続けられてきた外環対策の応援費を会費としてい

まだに納めてくださる方々もあり、以前よりは少なくなったとはいえ、外環対策運動の大きな支えになっています。しかし外環沿線から遠くなるほど、自分の暮らしに支障がなければ外環への関心は薄くなることは致し方ありません。ですが、今後菅野の地に外環工事が現実となれば、いま松戸や北国分で起きている工事被害が、そのまま或いは姿を変えてか起こりうると考えなくてはならないでしょう。

砂洲に蓄積された脆弱な土壌を地盤とする菅野に外環工事はどのように進められるのか、具体的な説明はまだありませんが、説明だけで安全と受け止められるか、もし工事中に災害が生じて土壌に強大な異変が起きないとも限りません。そうした現象に対処する方策は万全なのか。また真間川の下を外環が通り、上を国道が通る構造だそうですが、それらの工事は案ずる程のない容易なものか、住民としては計り知れない不安があります。徹底した説明を求める必要があります。かねてより“全地下にして”という住民からの要望が出されていましたが、構造として、また工事について、双方の安全性についても納得いく説明を求めたいと思います。

私たちは平成 19 年、外環工事は住民や地域にとってどうあるべきかの要求を全うすべく、埼玉外環や松戸・北国分にもたらされている工事被害についても改めるべきは改めて見直しをするよう、即ち公害影響評価が正しくなされているかを、千葉県公害審査会に調停を求めています。国土交通省の、主張を曲げない不明瞭な回答を分析し、また球を投げ返しの継続は地を這うような忍耐を重ねてきていると思います。

菅野の外環道は北から南へと菅野３丁目と２丁目を貫き、町を分断します。西からの風は遮る物もなく町全体へと吹き付け、汚染された空気が覆い、騒音と振動を伝えます。外環がもたらす効果とは市川全域の車の渋滞を緩和し、市内の空気を今までの数倍も浄化するということですが、惑わされることなかれ！　沿線の住宅地にはそれらすべての逆効果が発生しうるということなのです。今後の展開を考えると、沿線の町会が“住民の声”と共に、迫り来る外環を地域の最大の関心事とすべきと考えます。そのためにはまず“知ること”であり、埼玉から松戸へのルートの現状を松戸や北国分の工事の現場を見て、自分たちの目で捉えたものを菅野へとスライドさせて、この現実を共有することだと思います。

来る４月 18 日に菅野３丁目町会長のユニークな発案で、子供公園でチューリップ祭りが催されます。外環予定地に近い小中学校や多数の有志の児童・生徒たちが自分たちで手植えした6000個のチューリップの球根が咲き誇る公園とのお別れの音楽祭でもあります。地域商店街からも沢山の応援があるそうです。子供たちのこの日の思い出は《人の住むまち》を考える種子となって心に育まれることを願います。見事に咲き揃ったチューリップの球根のように。

2010.3.30

外環と考古学について

西畑　健一

考古学は、皮肉なことに戦後の環境破壊によって急速に発展してきた。たとえば中央高速道建設の際、縄文中期の大遺跡が次々と発掘され、平城京の調査発掘では大型販売店建設の事前発掘調査で、当時の貴族の邸宅の遺跡から多量の木簡が出土した。こうした考古学の発掘によって新聞で出土遺物の貴重さが報道され、人々の関心を集めたりするが、ただし誤解されては困る。宝物を探し求めて掘る発掘が考古学ではない。理論や記録を実証するために、当時の‘もの’を通して精査する学問が考古学なのだ。市川には、堀之内貝塚、曽谷貝塚、姥山貝塚と３つの国史跡の貝塚がある。これらの貝塚は史跡として指定されることにより法律的に発掘を制限される意味をもっている。国が発掘を禁じているのだ。どういうことかというと、発掘した遺跡は、遺物を取り上げた時その土が空気に触れる。現在の考古学では、遺跡の土壌を分析し土壌に含まれる細菌・花粉・脂質酸などあらゆる科学的分析を行っているが、そのためには空気に触れていない遺跡の土壌が後代の研究のために保存されなくてはならない。遺跡は、発掘されたその時に細密なデータを残して破壊されてしまうのだ。

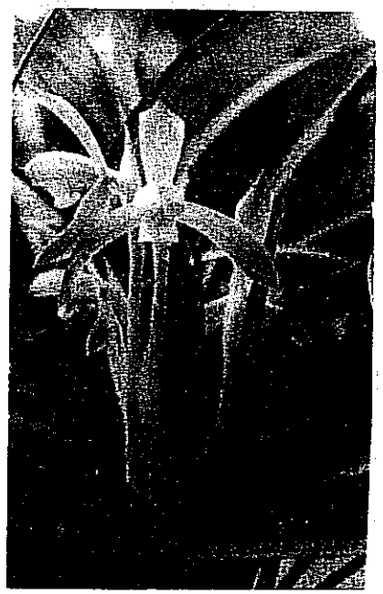
外環道建設に一貫して主張してきたのは、豊かな遺物が予想される埋蔵文化財の稠密な地域をルートから外して欲しいということだった。外環道の工事は、これから菅野や平田など市街地の中心部に工区が進められる。真間の入江のほとんどは埋められてしまっていると考えられるが、わずかに真間川にその痕跡が残されている。その真間川の河底から「万葉集」の歌で都人にも知られた手児奈に関連する遺物が出土することが十分に予測できるし、源頼朝が千葉から武蔵に向かった時、下総の国府に留まったことが「吾妻鏡」に記されている。そうした遺物が出土する可能性も大きいのだ。山部赤人も高橋虫麻呂も源頼朝もその郎党たちも、現在のスポーツセンターあたりに置かれた律令期の市川国府への道を歩いていたことだけは確かである。

菩薩像墨書土器

外環発掘調査で、先にバス道路国分交差点近くの北下瓦窯跡からは国分寺瓦を焼いたロストル窯と登り窯が出土し、今回国分川の河底から珍しい奈良時代の菩薩像の墨書土器や人面墨書土器が出土した。焼け損じた国分寺瓦のほか、多数の須恵器・土師器や漆器椀など木製品も出土し、特に斎串（いぐし）、形代（かたしろ）などは、罪や穢れを川に流す祓いのための祭祀用具で、当時国分寺で行われていた宗教行事の実際が考古学的に確かめられたものとして極めて貴重な遺物である。こうした遺物が大量に出土した事実を、国はもっと重大に受け止めなくてはならない。埋蔵文化財は国民の共有財産なのだ。文化庁とか国土交通省とかお役所のタテ割り行政のワクを外して、律令時代の学問の中心であった国分寺の遺跡に付随する瓦窯跡だけでも、国史跡に追加指定すべきであると、市川市民として訴える。現在、国分寺瓦窯跡は、青いビニールシートが掛けられたまま、発掘にあたった県教育振興財団が、現状保存か記録保存かの決定を見守っている。現状保存であれば当然ルートはその分変更されなくてはならない。　　2010.3.17

早春の花　シュンラン

谷口　浩之



今年も無事咲きました。早春の花シュンランです。ラン科の中でもほかのランに先立って春一番に咲くので「春蘭」と名がついたと聞いています。心地よい名前です。一度聞いたら忘れません。

わが‘緑のまち’の木漏れ日の差し込む日当たりと風通しのよい雑木林に生きていてくれたのです。

淡黄緑のガク片と白地に紫色の斑点のある唇弁（しんべん）を持ち、茎のわりには大きい花を咲かせます。斑点からホクロという別名もありますが、むしろ「ジジババ」の方が知られています。蜜を吸いにやってくる虫たちの目印になり、花の中に入りやすいように誘導路のようになった構造に感心させられます。花茎には一輪しか咲かないのですが、２つ付いた物もあるようです。

‘緑のまち’で初めて見たのは、’04 年でしたが、今ではそこには見当たらず、数メートル離れた場所に姿を見ることができます。昨年の４月号で「早春の花　アマナ」を書きましたが、そのアマナの近くにある別の場所で見たのは昨年で、今年も枯葉の中、アマナに先がけて咲いていました。

そのアマナは、３月の暴風雨にも負けず、可憐な姿を見せていたのにホッとしました。

シュンランの細長い葉は、花がないとヤブランと間違えやすいのですが、かたく、ふちがざらざらしています。都市開発と、ランと聞くと根こそぎ盗掘してしまう愛好家？のため、市川市でも大変少なくなってきています。残念なことです。

第17回小塚山森の音楽会

と　き：　2010年5月9日（日）
ところ：　小塚山市民の森あずまや前広場（雨天の場合は小塚山研修所）

プログラム：

開会　12時30分

第1部　森よとわに　合唱
主催者あいさつ　実行委員長
外環道路現況と展望　外環反対連絡会　高柳
アンクルンの会　演奏
緑のまち合唱団

第2部　13時
尺八と箏の調べ
演奏曲：
春の海　さくら変奏曲　瀬音
アメイジンググレイス　など
休憩後、後半の演奏の前に「野鳥の話」（メッセージ）

終　了　15時過ぎ

演奏メンバーのプロフィール：

尺　八：　吉田長生（よしだ　ながお）
伝統音楽普及振興活動グループ「竹童」代表。東京藝術大学音楽学部邦楽科別科卒業。演奏会・テレビなど多方面で活躍中。

箏：　阿佐美　穂芽（あさみ　ほのか）
東京藝術大学卒業。千葉県出身。国内外を問わず演奏活動に取組む。

門井　良博（かどい　よしひろ）
玉川大学文学部芸術科卒業。東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。上野雅楽会に所属し、雅楽の演奏・普及に努めている。

日吉　章吾（ひよし　しょうご）
東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。在学中「安宅賞」を受賞。

小塚山　森の音楽会に寄せて

村岡　幸生

私は12年前の1999年2月より、1年間に約30回の割合で、堀之内貝塚、小塚山、じゅんさい池と歩き、おもにそこに生息する野鳥を観察しております。この12年間に、この小塚山だけをとっても、およそ70種類の野鳥が観察されております。なぜこれ程に多いのでしょうか。それは年間を通じ、この場所が野鳥の貴重な生息場所となっているからです。冬には北の国から、また日本の高い山からここにやって来て、冬を過ごし、春が来ると帰って行きます。春と秋には渡り鳥が旅の途中ここに立ち寄って行きます。また一年中ここに生息して繁殖している鳥もいるからです。このように鳥たちにとってとても貴重な場所であるとともに私たちにとっても貴重な場所なのです。

あらゆる動植物から地上の微生物に至るまで、それぞれが複雑に関連しあってこの生態系が成り立っております。人間もまたその中の一員でもあります。私たちが日頃何気なく呼吸する空気も水も食物もすべてこれらの生態系の中から生成されたものだからです。考えてみれば私たち人間は、ただそれを消費しているだけに過ぎません。

しかし、今、地球全体の生態系が崩れようとしております。この小塚山も例外ではありません。特に外環道路建設の調査・測量・トンネル工事が始まった頃から急激に鳥・虫そして植物もその様相が変わってしまいました。先に小塚山だけでも70種類の野鳥が観察されたと申しましたが、そのうちの多くの種類が姿を消してしまいました。同時に観察をしてきた堀之内貝塚やじゅんさい池ではそれ程の変化はありません。しかし人々はこの変化に気付いておりません。

事業主側の国土交通省は、なんら環境基準に反していないとして工事を進めております。単に人間生活のみを対象とした何ppm、何デシベルといった基準は、先に申しました動植物にとっては何の基準にもなりません。物言わぬこれ等の動植物は環境の変化について行けず、ただ消えてゆくだけです。これに対し生活の利便性を追求するあまり、日頃のことに関心を寄せる人は少ないのが実情です。豊かな生態系を守ることがとりもなおさず私たちの生活を守ることです。皆さん、ひとりひとりの生態系への関心が必要なのです。どうか皆さん、今ここで大きく息を吸い込み、野鳥の声を聞き、まわりの木々を見て、この生態系の大切さを再認識いたしましょう　2010.5.9